

介護保険事業計画<第7期>(令和元年度)進捗状況について

1. 介護保険事業計画<第7期>概要

介護保険事業計画<第7期>は、平成30年度から令和2年度までを計画期間とし、「地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた体制整備」「高齢者の暮らしを支える体制の充実」「市民参加と利用者の保護」「サービス提供体制の充実と介護給付の適正化」を柱として取り組んでいます。

2. 福生市の高齢者の状況

65歳以上人口:15,125人(令和2年6月1日現在) 高齢化率:26.43%
1号被保険者数:14,894人(令和2年3月末現在)

3. 福生市介護保険事業計画(第7期)状況一覧(資料4)

■高齢者人口の推移(P.1)

高齢者全体では、人口、高齢化率ともに計画値を上回り、既に令和2年度の計画値も上回っています。

前期高齢者は、65～69歳では計画値を下回っていますが、70～74歳では計画値を上回っています。

後期高齢者は、すべての階層で計画値を上回っており、特に75～79歳の計画値と実績値の差が大きくなっています。

40～64歳までの第2号保険者の人口は、計画値を下回っていますが、対総人口比率では計画値を若干上回っています。

■所得段階別被保険者数(P.2)

国は第6期介護保険事業計画(平成27～29年度)から、被保険者の負担能力に応じたきめ細かい保険料負担段階の設定を行うため、第1・第2段階の統合、特例第3段階、特例第4段階の標準化などにより、標準段階設定を6段階から9段階に見直しました。市ではこれに合わせてとともに、引き続き負担能力に応じた多段階設定を行い、第6期から所得段階を14段階に設定しています。

令和元年度の実績は、高齢化に伴う第1号被保険者の増加により、前年度比で150人の増となっています。

■要介護(要支援)認定者数(P.3)

要介護度別の認定者数は、要支援1を除き前年より増加し、全体では計画値を上回っています。

また、要支援2は、令和7年度の計画値を上回りました。

■介護サービス利用者数(P.4)

要介護認定者の増加に伴い全体的にサービス受給者数は増加傾向にあります。

なお、地域密着型サービスの利用者が平成28年度に急激に増加しているのは、制度改正により通所介護サービスの定員18人以下の小規模の通所施設が地域密着型通所介護に移行したことによるものです。また、各種サービス、施設の利用は市外利用分も含まれています。

■居宅介護給付サービス等の利用延べ人数(P.5)

居宅介護給付で利用の多いサービスは、訪問介護、居宅療養管理指導、福祉用具貸与で、特に居宅療養管理指導の利用は計画値を大きく上回っています。

介護予防サービス系では、福祉用具貸与が特に計画値を上回っており、手すりや、歩行器などの転倒予防のための利用が増加しています。

■介護保険4施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護療養型医療施設・介護医療院(平成30年4月創設))の要介護度別入所者数((P.6 上段)

要介護1から要介護3までの入所者数は計画値を上回っています。また、要介護4及び5の入所者数は、前年との比較では増加しているものの、計画値では下回っており、入所者全体に占める割合は増加しています。

■認知症者割合((P.6 下段)

要介護認定申請件数に対する認知症者の割合は56.6%で、前年を0.8Pt下回りました。

平成30年度に作成した認知症ケアパスを活用し、認知症への理解を深めるとともに、医療機関等への受診や介護申請のタイミング、家族支援などについてもお知らせしています。

■介護給付費 計画及び給付状況(P.7)

総合給付費では、介護給付費、予防給付費共に、認定件数の増により増加しています。

地域支援事業費では、総合事業対象者が利用する介護予防・生活支援サービス事業費が増加しましたが、地域包括支援センターに係る経費の減少による包括的支援事業費の減額により、緩やかな増加になりました。

総事業費の実績は、前年度との比較では増加していますが、当初見込んだほどの伸びはなく、実績値が計画値を大きく下回っています。